

かなよみ

新聞第百九十九號久留島家  
騷動の顛末  
時、明治十二年二月廿三日午後十一  
時、過芝通り新町十四番地華族從五  
位久留島通靖君が平民吉廣文之助  
の爲に横死と遂らるるハ諸説紛々  
として其實は得難し然れども近隣  
の風聞によれば此文之助同君が兼  
て愛する世に者ある武助者ハ既  
に同地の差配と勤め文之助ハ生願  
る實直みして能通靖君の爲に仕ふる  
忠と以てを然る小先年雇入らるる  
妾冬本ち豊ハ其出所ハ賤しく其始  
り鶴賀の一調ハ辛くも三筋の糸ハ世  
を穿みと一タラ通靖君みかもんと  
終に妾とより枕席を共にして毒舌妻  
君の怨と訴へ同衾の期を待て家令  
私と諷一之が爲に家親睦せむ幾程  
もあま妻君ハ離縁とより家從尽く廢せら  
る後其堂義明と家扶ハ内外の家政をよ  
う威権ハ歸せ彼文之助とと深き愛ハ  
終に此舉動に至り通靖君とと義明と殺  
害し其後新井其地ハ傷を負て自ら銃死す  
る事ハ新聞紙に載り朝野婦人皆古今迷ハ  
これハ世に傳へる風之終に血蹟と新聞紙  
上ハ和らむ  
久保田彦作記

久留島通靖君

妾おとよ



芳年国周画帖 1帖 本別7-522 02- 033







仁田新吉

臺義明

梅堂國政圖

柳留明治三年三月  
長谷川町三丁目  
畫主 竹内繁  
横町三丁目番地  
世長 辻岡文助

芳年国周画帖 1帖 本別7-522 02- 035

国立国会図書館

